

平成25年度 長野県農業大学校 評価表

評価 A:目標を上回った B:ほぼ目標どおりできた C:目標を下回った

学校教育目標	重点目標(中・長期目標)	総合評価		評価
高度な専門知識、技術ならびに幅広い視野と豊かな人間性をもった、明日の農業・農村を担う優れた人材を育成する。	理論と実技を同時に学ぶ実践型の教育により農業技術の高度化・経営の専門化に対応する知識、技術を習得させるとともに、寮生活や自らテーマを定めて行うプロジェクト学習等により他者との協調・自己の確立等の社会性を涵養し、21世紀の農業・農村を担う優れた人材の養成を目指す。	学生の目的意識や基礎学力により、習熟度に差はみられるものの、座学や農場実習による専門知識、技術等の習得及び寮生活やプロジェクト学習により協調性、社会性、自主性を磨くなど、目標に沿った人材養成ができた。特に、本年度は、授業欠席が大幅に改善されるなど、望ましい学校風紀が築かれつつある。		B
	今年度の重点目標	成果と課題	改善策	評価
	授業研究を重ね、農業実践教育を通じて、自立した社会人を養成する。	授業研究の意識づけができた。新社会人として52名(就農12名23%、就職32名60%、進学1名2%、その他15%)を送り出す。	引き続き、授業充実に努める。	B
	「実践経営者コース」のカリキュラム、講師、授業計画、選抜方法などコース立ち上げに必要な準備と定員確保に努める。	企業的農業経営者に必要な4つの力もつ人材育成を教育方針とし、ハード、ソフト両面での準備がほぼ終る。定員10名に対し、7名を確保した。	学生に寄り添い、目標実現の手助けをする。	B
在学生の就農率向上のため、セミナーや法人との意見交換会を開催する。	講師を身近な県内青年農業経営者としたことから、学生の農業の魅力や意欲を高めるセミナーとなった。意見交換により、就農説明会等企画することとなる。	引き続きセミナー開催をするとともに農業法人とのマッチングの仕組みづくりをする。	B	

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	改善策	評価	
学習指導	授業実習内容の充実を図る	・ねらい、展開、見とどげの観点で授業を行うとともに実物やパワーポイント等を用いたわかりやすい授業を行ったか。	・中間テスト等により学生の理解度の把握や他の教授の授業を見学するなど、授業内容の充実、研究が図れたか。	校内教授の授業について、3観点による授業充実や実物、パワーポイントを使うなどわかり易い授業へと見直しを図った。 プリントテストは1年で15%、2年で24%で採用するとともに、11月を授業見学期間とし、他の教授の授業を見ることによる自己授業内容の充実に努めた。 寝てしまう学生への対応や学習意欲差への対応が課題である。	引き続き、授業見学期間を設定し、授業充実に進める。	B	
		・プロジェクト活動の進捗に併せ、同コース1年が見学できる機会を設けたか。	・プロジェクト内容は、学生の能力に応じて、経営管理力を習得させるよう改善したか。	1年の見学は専攻実習、プロジェクト実習の時間に随時設けた。 2年プロジェクトは、できる課題から経済性比較の項を設けて経営管理の意識づけを進めた。	プロジェクト生産物を自ら販売する仕組みを構築し、経営感覚を学べるよう改善する。	B	
		・現場で使える知識、技術、時代変化に対応した授業内容に教授要目を見直したか。	・各種資格試験や検定試験を奨励し、学生の学習意欲を高められたか。	2月末をめぐりに現場で使える内容に26年度教授要目の見直しを進めている。 学年会議でシラバス内容を検討する機会を設けた。	できた教授要目に基づき、授業を展開する。	B	
		・十分な専攻実習やプロジェクト活動ができるほ場面積やハウス等を用意できたか。	・新コース新設に伴う農場や施設等の確保ができたか。	ほ場、ハウス面積は十分確保できた。なお、ぶどう、りんご新植園で若木のため結実不安定。凍害による枯死が発生した。 補正予算により、施設野菜ハウス、施設花きハウスを新設する。	授業実施計画に基づき、引き続き、ほ場、ハウス等準備する。	B	
	効率的・計画的な農場利用で学習効果を高める	・各コース別の年間作付け計画に沿った農場管理ができたか。	・学生主体とした休日の農場管理を実行できたか。	各コースとも、計画どおり作付及び管理ができた。 各コース担任の指導の下、学生主体の管理ができた。 家畜飼養管理マニュアルを作成し、レベルの統一を図った。	管理マニュアルの見直しを進める。	B	
		・1年生は10月末を目途に将来の進路を決定するよう指導できたか。	・2年生は2月末を目途に就農及び就職先等決定するよう指導できたか。	1年生は10/28に保護者との3者懇談会を開催し、早期進路の明確化を促した。(10月末進路決定率100%) 2年生は、積極的に就職活動を行うよう促した。(1月末内定率85%)	「就農向け」、「就職向け」の特別演習を引き続き、実施するとともに希望する進路の実現に努める。	B	
	教育活動	進路指導	・就農率向上セミナーなど進路実現のための授業等を計画的に実施できたか。	・学内掲示板、HRなどを活用した求人情報の提供がなされたか。	県内先進農家を招き、経営者の魅力など説くセミナーを5回開催した。(自家就農4名、農業法人8名、就農率23%) また、毎回レポートの提出をさせ、学生の反応を把握した。	次年度は内容の充実も図り4回開催する。	B
			・法人就農リストの作成や法人との意見交換会等を通じ就農率向上への取り組みができたか。	・学内掲示、HRなどを活用した求人情報の提供がなされたか。	ハローワークの求人検索システムから出身地域別に情報を入手し掲示した。 県の農業担い手育成基金の農業法人求人情報を随時掲示した。法人とのマッチング事例を収集し、法人協会と意見交換を行った。	引き続き、情報提供を行うとともに、農業法人とのマッチング機会を設ける。	B

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	改善策	評価
生活指導		社会的規範意識を高め、基本的な生活習慣の育成に努める	・交通安全・防犯・健康講座などを通じて、生命尊重や社会的ルールを守る意識を高めることができたか。 ・学年担当会議の定例化により教授間の情報共有、対策の検討が図られ適切な指導ができたか。	4/24交通安全防犯研修会、5/28健康講座、1/20ビジネスマナー講座などを開催した。 学年会議は、繁忙から後半、定例開催ができなかった。	各講座を引き続き開催するとともに、学年会議の時間内定例開催を行う。	C
		自他の生命を尊重する精神を養い、豊かな心を育成する	・1年生と2年生を同室とし、先輩・後輩の関係を学び、他人を尊敬し思いやる心を育てることができたか。	前期にラジオ体操の自主開催を指導したが、約2か月で2/3が不参加となった。 規律ある生活のパロメーターといえる授業への遅刻、欠席率が前年に比べ大幅に改善した。	引き続き、根気よく指導を行うほか、教授間の情報共有を図り、全員で指導する体制をつくる。	B
			・1年生と2年生を同室とし、先輩・後輩の関係を学び、他人を尊敬し思いやる心を育てることができたか。	前期に1年2年生を同室とした。上下の関係構築には効果があった。 心の相談に応じられるようカウンセリング体制を整備した。	新寮は、個室のため、共同生活の良さをいかに残せるか検討する。	B
教育設備の充実	農業機械や施設機器の充実	・予定された農場実習等の農作業に必要な機械・設備は充分確保されているか。 ・農業関連企業と連携により、不足する農機の解消ができたか。	老朽化した機械の故障は度々発生したが、修理等繰り返し、実習に支障がないよう確保した。揚水ポンプ故障問題が発生したが影響ないよう対処できた。 補正予算により希望する農機、施設の整備ができた。旧施設の除却も来年度に向け計画的に進んでいる。 農機販社との連携は、3月17日に「長野県農業を担う人材育成支援の」協定を結んだ。	水利組合と連携して水源確保に努める。	A	
		・農業機械・施設・機器の適切な管理運営は行われているか。 ・使用できない機械の廃棄がおこなわれたか。	修理は、予算に合わせ実施しているが、定期的な更新が望ましい。 新規導入に合わせ、不要機械を選別した。廃棄処理が未処理である。	必要な修理は行うとともに、コース担任と連絡を取り不要な機械の廃棄を進める。	B	
		・実習棟・機械庫等は整理整頓がなされているか。	整理は逐次進めたが、特に工具類の整頓ができていない。	コース毎あるいは共通的に定期整頓日の設定等対策を講じる。	C	
	学校用地や施設の適切な維持管理	・農場以外の学校用地や施設の維持管理が適切に行われたか。	緊急雇用事業により、除草や施設修繕が計画的にできた。 予算がない次年度の対応が課題である。	学生を含めた対策を検討し、適切な維持管理に努める。	B	
学校運営	学生募集の活動	・学生募集・オープンキャンパスのポスターを作成・配布し、農業大学校の関心を高めることができたか。	オープンキャンパスの開催により参加者の約7割が当校への進路希望を高めるとともに、参加生徒の約4割が本校を受験した。また、ホームページ、学校の先生からの順に開催告知の効果があった。	効果の高い媒体による告知方法の充実を図り、引き続き、オープンキャンパスを開催する。	B	
		・既存コースは農業高校を、実践経営者コースは、大学、普及センター、市町村、農協及び県内外の相談会等あらゆる機会を通じて、情報提供ができたか。	大学、普及センター、市町村、農協及び県内外の相談会等に出向き、対話によるPRを行った。また、ラジオ番組やテレビ番組(サ・駅前テレビ)などの媒体でのPRも実施した。	PR実績を検証しより効果的なPR方法に、シフトする。	A	
		・県内高校への訪問活動を行い、進路担当教諭の理解を深めると共に、生徒にとって必要なアドバイスができるよう情報提供を行ったか。	近年入学実績のある高校(62校)への訪問のほか、民間企業主催のガイダンスにも参加し、PRに努めた。	民間企業ガイダンスは直接高校生の相談に乗れるので、積極的に参加する。	B	
		・入試案内、行事等を計画的に紹介するなど、積極的に大学校のPRを行うことができたか。	入試案内、オープンキャンパス等の行事を告知、紹介した。 9月からはブログに参加し、ほぼ週1回記事を掲載している。	関心を深めるようテーマ、内容を検討し、魅力的な情報発信に努める。	B	
	その他	予算執行の適正化を図る	・計画的な予算執行と無駄を無くすため、農場はコース別に、管理運営は費目別に執行状況を管理できたか。	農場はコース別に、管理運営は費目別に管理のうえ、毎月執行状況等の情報提供し、計画的な予算執行に努めた。 「危機管理対応方針」を作成し、緊急事態発生時の対応を職員に徹底した。	引き続き、計画的、効率的な予算執行に努める。 PDCAサイクルにより改善を繰り返して実効性を高める。	B A